

シンポジウム

第4次調布市地域福祉活動計画報告会

地域の人と人とが知りあい、地域の輪が広がる

夏休み工作教室



高齢者施設でのわいわいまつり



身近な地域で
未来を創る



小学校の総合学習の時間

3/6(土)
午後2時～

たづくり12階大会議場

地域の子どものものであり、ふれあい

<会場案内図>

平成22年 3/6(土) 午後2時～5時(開場 午後1時30分)

第1部【基調講演】「支えあう地域づくり」

講師：和田敏明氏(ルーテル学院大学大学院教授)

第2部【報告】第4次調布市地域福祉活動計画について

【シンポジウム】「地域の人と人とが知りあい、地域の輪が広がる」

司会：結城俊哉氏(第4次調布市地域福祉活動計画策定委員長)

シンポジスト(第4次調布市地域福祉活動計画策定委員)

奥田啓子氏、村上佳子氏、日比生信義氏、渡辺美代子氏

【会場】調布市文化会館たづくり 12階大会議場

【定員】先着200名(予約不要)【参加費】無料※手話通訳・要約筆記付き

【問い合わせ】042-481-7693【アクセス】042-481-6611



【主催】 社会福祉法人 調布市社会福祉協議会

【基調講演】 和田敏明氏（ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科社会福祉学専攻主任総合人間学部社会福祉学科教授） 調布市在住

いつまでも住みつづけたいと思うまちづくりをめざして、身近な地域で、住民主体の多様な福祉活動を活発にし、地域に新たな支え合いを作り出し、人と人とのつながりを取り戻したり、創り出したいと願っています。支え合い、つながりが強い地域は生活問題の発生を予防し、安心し、いきいき暮らすことを可能にしてくれます。住民の福祉活動がなぜ必要なのか、どのような活動ができるのか、地域づくりの進め方を、各地の事例を交えてお話しし、聞いてくださる方々と一緒に考えてみたいと思っています。

【シンポジウム司会から】

結城俊哉氏（筑波大学大学院障害科学系准教授）

はじめまして、第4次地域福祉活動計画策定委員会の委員長を担当した、結城です。最初、僕は、調布市の住民でもないし、大学では、「地域福祉論」の授業を担当しているという割には、何かその道の特別な専門家(?)というわけでもなく、事務局から「きっと、勉強になるから引き受けてよ!」という依頼を断れなかったことからこの事件（計画作り）は始まったのです。果たしてその事件の真相は……。乞うご期待! テス。

【シンポジストから】

奥田啓子氏

今回の計画策定に参加させていただくまでの、私自身の調布社協とのかかわりをたどりながら、「自己実現」や「ケア」をキーワードにお話しさせていただきます。それはそのまま、様々なバックグラウンドを持つ委員・職員の皆さんと交わってきた、「身近な地域での福祉活動」をめぐる議論のテーマとも符合すると思います。この活動計画が、調布の、さらに小地域の個性を活かす方向に展開することを願いつつ、シンポジウムに参加させていただきます。

村上佳子氏

私は、障害者団体の立場（NPO 法人調布心身障害児・者親の会）で地域福祉活動計画策定に関わりました。これまで障害児・者に対する福祉という観点で福祉を考えてきましたが、この計画策定を通して、障害者福祉も大きくは「地域福祉」の枠の中に入ること、また、身近な地域の中に入ってこそ障害児・者への理解も進み、障害者福祉そのものも進んでいくことを改めて教えていただきました。一人では何もできないのではなく、一人一人ができることは何なのかをこれからも考えていきたいと思っています。

日比生信義氏

現在、市内の企業に勤めながら調布市社会福祉協議会理事、石原小学校地区協議会代表、市民活動支援センター運営委員会委員長を務めています。地域のことは行政だけがやってくれるのではなく、自分たちでなんとかするという時代。でも地域活動は無理してはダメ。自分の好きなこと、得意なことから入って行って、そこで出会った人たちと「一緒に、ゆっくり、だんだんと」が長続きコツです。

渡辺美代子氏

私が子どもの頃、昼間家に鍵をかけた記憶がありません。ですから近所づきあいは出入り自由の遠慮無しで、我が家のおばあさんはいつも誰かとお茶のみをしていました。偏屈な子どもだった私はそれがいやでたまりませんでした。ところが今、もっと歳をとっていずれ家の中だけの生活を余儀なくされた時に社会との係わりを残すために、心にもバリアフリーが必要と思いながら「鍵のジレンマ」につきあたっています。どなたか一緒に考えてくださいますか？